

アイヌ語地名懇親会活動概要

永田良茂・藤井真理（アイヌ語地名懇親会）

はじめに

我が国の歴史をふり返る時、約1万3千年続く縄文時代の縄文文化は新たな渡来民とともに弥生文化がもたらされ、激動の弥生時代を迎えて以来、言葉もかつて広く共通に使われていた縄文語は失われてしまいました。

地名は発生当時は当時の一般的な誰でも分かる言葉で、その土地の特徴を端的に言い表したのですが、一旦定着すると記号として機能し、言葉の意味が失われても、例えば民族交代、言語交代が行われようが、元の定着した地名が使われ続ける特徴があります。

縄文時代の縄文語による縄文地名が各地に残っているものを、梅原猛先生の主張である「縄文語はアイヌ語に引き継がれてきた」の説に基づき、アイヌ語による語源分析を行い、地形の特徴と比較し追求しようとするアイヌ語地名の研究活動は多くの方が試みてこられました。認知されるに至っていません。北海道・東北以外にもアイヌ語地名が多くあり探求の結果として、梅原説が正しいことを証明しようとする研究活動であり、年2回の発表会を通して**アイヌ語地名の認知・普及**、情報交換し、親睦を深め、会報を発行して活動報告を行っています。

（ホームページ “Jomon-sir-re” <http://atk-la.o.oo7.jp/>）

方法

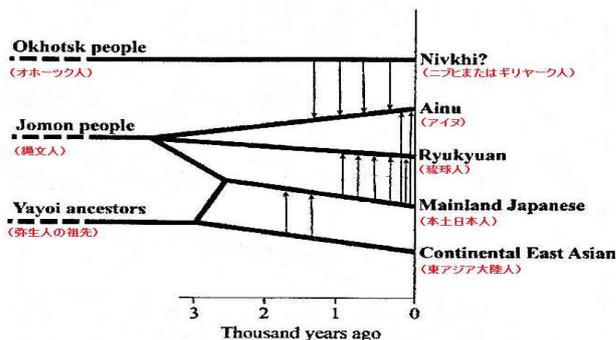
平成26年(2014)9月に第一回目の発表会を開いて以来、年2回の発表会を春と秋の2回開いています。春には会員の総会を開き運営方針などを審議しますが、別途運営は世話人会で相談して決めています。課題はアイヌ語地名の普及・認知・定着のための会員拡大です。

結果と考察

総会・発表会の開催場所は次の通りです。

- 2014年 9月 神戸・三宮（コムスタこうべ）
- 2015年 4月 神戸・三宮（コムスタこうべ） 11月 神戸・三宮（コムスタこうべ）
- 2016年 4月 長野・松代（国民宿舎松代荘） 11月 神戸・三宮（コムスタこうべ）
- 2017年 4月 東京・八重洲（アイヌ文化振興会館） 11月 神戸・三宮（コムスタこうべ）
- 2018年 4月 三重・松阪（松浦武四郎記念館） 11月 神戸・三宮（コムスタこうべ）

最近のDNA遺伝子人類学の成果はめざましく、図に示すように我が国の民族系統問題は決着してきています。すなわち、日本人は縄文系と弥生系の混血民族ですが、アイヌは縄文人の



直系の子孫であり、縄文文化、縄文語を引き継いでおり、各地の縄文地名がアイヌ語で復元できるのは当然なのです。アイヌ語に親しみ、地名語源に興味を持ってみませんか。

左図は「日本列島3人類集団の遺伝的近縁性」と題する研究論文から。